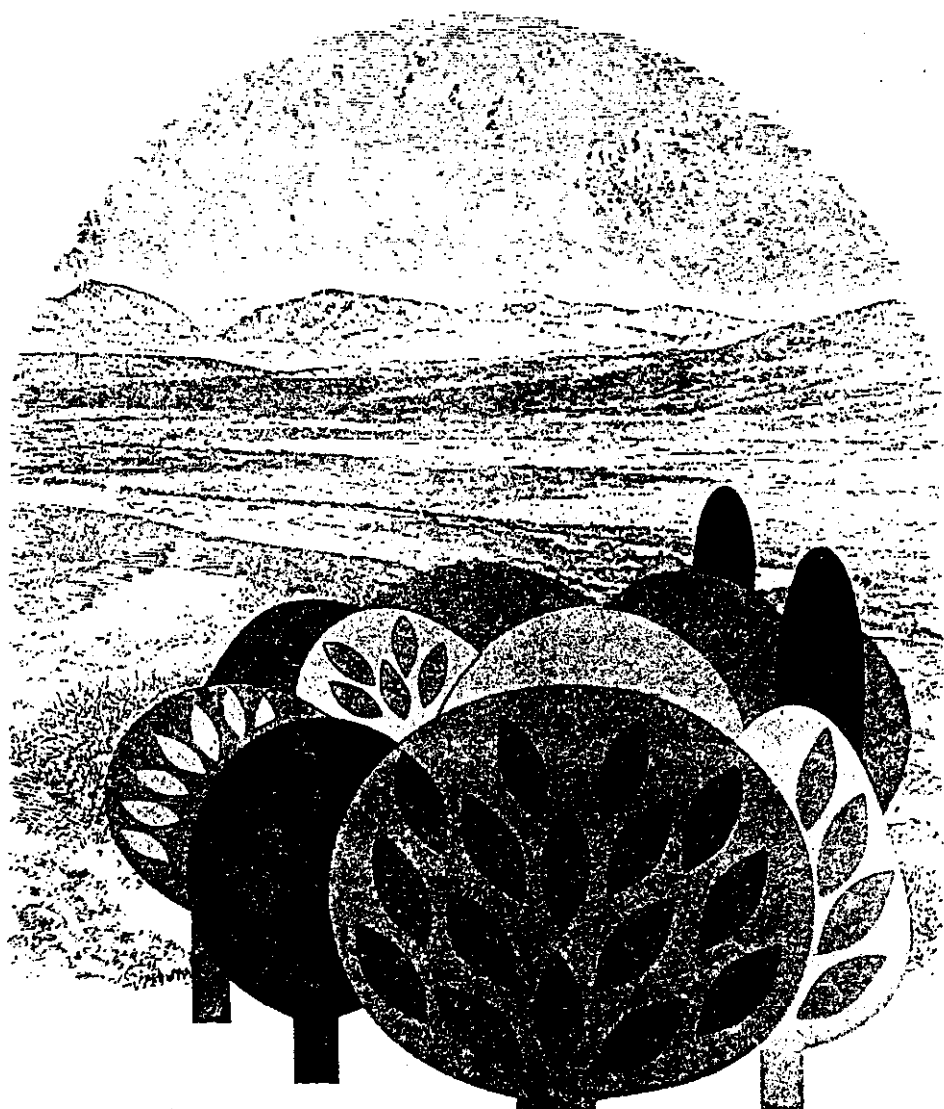


ユニバーサルな叡智 — 純粋科学・芸術・神秘学・宗教・哲学

# ノーシス 創刊号



CERTIFICATE תעודה  
ONE TREE עץ אחד

was planted in the Judean Hills, so that Gnosis may grow in Japan in accordance with the Divine Law, to help humanity.

KEREN KAYEMETH LEISRAEL קרן קיימת לישראל

GNOSSIS

ヘルメス文書より

「無知が人間における最大の悪であること」

人々よ、無知といふ生の言葉を飲み干し、酔いしれてどこへ行くのか。その言葉に耐えられず、もう吐き出そうとしている。酔いから醒めて、しっかりと立て。心の眼で仰ぎ見よ。もし、すべての者にそれが無理なら、できる者だけでもそうするがよい。と言ふのも無知という悪が全地に溢れ、身体に閉じこめられた魂を腐らせ救済の港に着かせないようになっているからである。

だから激流に押し流されてはいけない。流を利用し、救済の港に至り着くこと。のる者は、そこに錨を下ろし、おぼろげな光を待たせよ。一シスの門へと導くべき案内人を。そこには、闇から清められた輝き。

ヘルメス

一シス  
刊号

目次

- 1/ ユニバーサルな叡智  
—人間の7つのエネルギーについて
  - 10/ 般若船の船長/山本庸夫
  - 13/ ノーシス・ブラクティス
  - 14/ 生活の中のセラピー
  - 13/ 『心理革命』を読んで
  - 16/ 人生で勝利を治めるために
- 表紙 ノーシスの木

# ユニバーサルな叡智

## ——人間の七つのエネルギーについて

### 人間の主要なエネルギー

今日の講座では、人間の七つの主要なエネルギーについて説明します。

アインシュタインが、 $E=mc^2$ と説いたように、エネルギーは物質であり、物質はエネルギーです。宇宙に存在するものすべてが物質でありエネルギーなのです。我々の肉体もエネルギーです。この光もエネルギー

です。我々の身体を生かすことができるのもエネルギーです。また、我々が生殖をして、

子孫を繁栄させるのもエネルギーです。我々が呼吸しているのも生命のエネルギーです。

すべてがエネルギーなのです。そこで、宇宙に存在するエネルギーを理解するためにエネルギーをそれぞれ区別する必要があります。

ここでは、性エネルギーをどう操作するかを習ってきましたが、この性エネルギーがすべての生エネルギーのベースとなるものです。

そこで今日は、これから人間ミクロコスモスの七つのエネルギーについて説明します。

### 1. 機械的・肉体的エネルギー



まず最初に、我々がもつエネルギー、それ

はメカニカルな機械的なエネルギーと呼べる

ものです。すなわち、この肉体のエネルギー

です。これは、凝縮された物質によつて象徴されています。

我々はこのエネルギーを呼吸や水を通して受け取ります。また食物を通してこれを受け取ります。この食物を通して、ビタミン、タンパク質、ミネラルを摂取します。このような手段を通して、我々は肉体のためのエネルギーを取ります。

そして、このエネルギーをさらに活動させるためのものとして適度の運動があります。そのなかには、内分泌腺を活動させる運動があります。また、武芸によつても、このエネルギーを活動させることができます。現在に

## 2. バイタル・エネルギー

第二番目のエネルギー、それがバイタル・エネルギー、生体エネルギーと呼ばれるものです。この生体エネルギーは、我々のオーラによつて象徴されます。

我々の肉体は、肉体を生きているものとさせる生命体の層をもっています。すなわち、この生命体が肉体に宿っている間、肉体は生きています。この生命体が、我々のオーラの光を生じさせます。ですから、肉体が死んだ場合、つまり死体にはこの生命体がない

に到つては、武芸は肉体を強くすることだけに方向づけられています。多くの人たちは、これらの東洋の武芸がたいへん古い時代の哲学的な教えを基礎としていると考えています。そのことから、武芸の訓練によつて意識を目覚めさせることができると考えています。

今日、ここに来る前に、ひとりの空手家に会いました。彼はもう何年間も空手をしていません。拳も筋肉も固くなっています。しかし、マインドの状態は、何年も前と全く同じ状態です。内的・心理的状态には、なんの変化もありませんでした。

また、食物についても、多くの人たちが食

いので、死体にはオーラはありません。それによつて、この肉体と生命体との違いをみる事ができます。

この生体エネルギーは、太陽エネルギーによつて活動させられます。夜間は、脾臓を通して吸収します。このエネルギーは、東洋医学でいう経絡や神経を通して、体中に流通します。経絡というのは、解剖学でいう神経とは一致していません。それは、肉体と生命体とは違うものだからです。そして、それぞれ

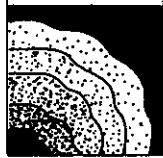
の洗練に専念しています。だれでも自分の周囲にあるものを洗練する自由をもっています。

食物だけでなく、衣類とか音楽とか、また習慣を洗練する自由をもっています。ですから、よい食物を食べることは、肉体によいエネルギーを与えることとなります。そして、多くの病気を予防するでしょう。でも、次のようなことは考えないでください。食物を洗練することで精神が向上する、とです。食物は、我々の意識の状態とはなんの関係もないからです。食物は、我々の肉体に表現されるエネルギーでしかないからです。

は異なつた手段で栄養をとりま

この太陽エネルギーをさらに意図的に大きく吸収するためには、ルーン文字エクササイズをすることで可能となります。それは、このエクササイズによつて、ソーラーバッテリーのように太陽エネルギーを充電するから

です。さて、この生体エネルギーは、イライラしている人の近くに



眠くなったりします。それは、バッテリーの電圧が下ってきているからです。この場合は、もう一度太陽エネルギーを吸収することで回復します。

一般的にオーラは、黄色っぽい色をしています。白い色の場合も多いです。しかし、それ以外の色がオーラに表われてくるときは、自分のマインドや心理的狀態によるものです。

### 3. サイキック・エネルギー

第三番目のエネルギーが、サイキック・エネルギー、心霊的エネルギーと呼ばれるものです。

このエネルギーの象徴となるのがチャクラです。このサイキック・エネルギーが、我々の超常感覚機能を開発します。超視覚、直観力、テレパシーなどの機能です。このような超常感覚機能を開発する方法として、マントラやその他の特別なテクニックがあります。

### 4. メンタル・エネルギー

第四番目が、マインドのエネルギー、メンタルエネルギーです。我々がマインドと呼ぶものは、メンタル体のものです。

たとえば、きれいなオーラをしていても、急に暴力的な考えが浮かぶと、黒く赤い色がオーラに出てきます。この暴力的なエネルギーは、生体エネルギーを消耗させます。

我々が夜眠るといふ行為は、昼間消耗したエネルギーを回復させる役目があります。ですから、夜勤は、生体エネルギーの回復という点からあまりよくないといえます。どうし

す。

このような霊の機能を開発するためにはこのサイキック・エネルギーを活動させます。食べ物によつて、我々の超常感覚機能を開発させるなどと考えないでください。というのは、食べ物は我々の肉体のためのエネルギーであるからです。チャクラを開発させるのはサイキック・エネルギーなのです。このよう

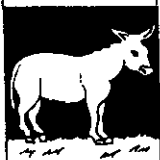
ても夜勤をしなければならぬ場合は、夜の間ずっと、大きなお盆か器に水を入れておいて、朝になったらその水を浴びるといふ方法があります。それは、我々はこの生体エネルギーを脾臓を通してだけでなく、すべての毛穴を通して吸収できるからです。

また、ビラミッド・パワーは、この生体エネルギーを回復させる働きがあります。



に、それぞれのエネルギーは、それぞれの役割、機能を持ち、その性質も異なります。

ですから、みなさん一人ひとり、超常感覚機能の開発の段階は異なっています。それは、一人ひとりそれぞれ異なつた仕方、それらの機能を開発してきたからです。



マインドは、いつも受動的なものです。ということ、外部からの印象も内部からの印象も、すべて受動的に受け取るということ

です。ですから、このエネルギーは我々自身がそれを集中させることで強化することができます。このマインドのエネルギーを集中した

力、それが日本語でいう「念力」になるわけです。この念力の強さは、一人ひとりの集中力によつて異なります。このエネルギーはいへんパワーがあります。

また、この集中以外にも、メンタルな訓練によつて、このエネルギーを活動させることができます。

このエネルギーを病気の治療に用いて、活動させることもできます。たとえば、頭痛について考えてみましょう。頭痛の原因となっているのは、ネガティブなエネルギーです。

このネガティブなエネルギーに対して、マインドのエネルギーをそこに集中させることによつて、ネガティブなエネルギーを中和または排除することができます。ただ、治療としては、表面的なものです。このノーシス講座では、ただ痛みをいやすことのみではなく、その痛みをおこしているものがなんであるか、その原因を知ることに関心があります。というのは、痛みがあるということは、その内部でなにかが起こつているという印なのです。身体のなかで、なにか普通でないことが起こつていると知らせているのです。

たとえば、腫瘍ができたから、頭痛がしはじめたと仮定します。その場合、頭痛だけを取り去つて、腫瘍をそのままにしておいたら、腫瘍は悪化します。そうすると、こ

の人を助けるどころか、害を与えることになつてしまいます。

ですから、このメンタル・エネルギーによつて痛みを取ることより、その痛みの原因がどこからきているのかを知ることのほうが、ずっと重要なのです。

また、このメンタル・エネルギーをスプーン曲げに使う人もいます。先日、テレビで放映していたユリ・グララーがそうです。これは、集中したメンタル・エネルギーが、物質であるスプーンの分子の記憶を変化させます。ですから、スプーン曲げをすることは、マインドのエネルギーを集中させる練習にはなりません。しかし、ひとつ重要な点を忘れてください。それは、スプーンを曲げたからといって、またこのメンタル・エネルギーを強く集中できるからといって、意識が目覚めているとか、精神が向上しているなどは決して考えないでください。それは、ただひとつの物理的現象にすぎません。すなわち、これは物質を克服したマインドの力である、ということなのです。

ここまで四つのエネルギーについて説明してきましたが、一番目の肉体のエネルギーから段階的に上がってきています。すなわち肉体のエネルギーが、マインドに影響を与える

ということは決してありません。ですから、いかに食生活を洗練したからといって、マインドの洗淨には役立ちません。それは、一台の自動車にたとえることができます。燃料となるのはガソリン、オイル、水、電気です。ここに四種類の異なったエネルギーがあります。それぞれが異なった機能をもっています。そうすると、いくらすばらしいバッテリーがあつても、ガソリンがなくては、自動車を走らすことができません。

これと同じように、メンタル・エネルギーの集中がいかに強いとしても、意識が目覚めているとはかぎらない、ということなのです。

ユリ・グララーは、今回の日本訪問で、前回よりさらにメンタル・パワーが強くなったといえます。今回は、スプーンだけではなく、ゴルフクラブも曲げたからです。彼は、九年前に日本に訪れましたが、次に九年後訪れるときには、電柱を曲げるかもしれせん。しかし、内部は眠つたまま、意識の状態も変わっていないでしょう。自分がなにをしているのか、なにが起こつているのか知らない、同じ状態のままでしょう。メンタル・エネルギーのみを操作しているにすぎないからです。かなりの集中力ですでもつています。しかし、それをどうしてもつていくか、またそれをどのようにして、さらによい方向に開発す

るかということを知りません。

我々のマインドを象徴するものは、ロバである、ということですが。ロバは、なにをするにも、命令しなければならぬ動物です。このシンボルは、歴史のなかでも、象徴的なメッセージとして使われています。

今週はイースターですが、これは、イエス・キリストが、エルサレムに入場したときにはじまりました。このときエルサレムの人々は、手にヤシの木の葉をもつてイエス・キリストを迎え入れます。ヤシの木は、ヴィクトリー（勝利）を象徴します。ですから、エルサレム入場するとき、人々はヤシの木でイエスを誉めたたえました。それは、イエスの勝利を表わしていたからです。そして、そのときイエスは、ロバに乗って入場しました。つまり、マインドを克服したという勝利を象徴していたのです。

このようなシンボルはたいへん重要ですよ。というのは、みなさんの夢のなかにも頻りに現われてくるからです。また、幽体離脱のときにも、多くのシンボルによって、メッセージが伝えられます。

ひとつ例をさしあげます。たとえば、アストラル体にいる意識がありながら、どうして自分に進歩がないのだろうか、と問いかけることができます。そうすると、示されるイメ

ージとして、ロバが一匹横たわっていて、どうしても動こうとしない、一生懸命ひっぱってもビクともしない、というのが示されます。そうして、アストラル・トリップからもどってきてから、その記憶を思い出すと、どうしても動こうとしないロバのイメージがでてくる。それがなにを示そうとしているのか、それは明白なことですが。自分のマインドの状態を変えていかない。以前と同じバカな考え方をしている。自分の内的な変換という努力をしようとしていない。ですから、全く進歩がない、ということがアストラル・トリップのなかのシンボルで示されるのです。

ノーシス講座の目的は、一人ひとりが段階的に進歩することにあります。このようなノーシスの知識をききながら、自分で実践せず、内的な変化をおこなわないならば、全く時間の無駄使いをしていることになりまます。

我々のマインドは、先にいいましたようにたいへんな力がありますから、逆にその力が我々を閉じ込めるといふこともします。マインドのなかにエゴが宿っているからです。ですから、我々のマインドは常に雑念があつて、静かにいられることがめつたにありませんし、自分のマインドが実在もしない妨害や障害をつくるということをします。

たとえば、マインドのなかに絶望というへ

いをつくるとします。そうすると、そのへいのなかだけに閉じ込められてしまつて、それ以外のものは全く見えません。また、なんらかの問題をかかえているとします。そうすると、この問題は我々のマインドのエネルギーを使って、我々を閉じ込めてしまいます。そして、おうおうにして自殺をする人も出てきます。自殺をして肉体から出たときに、マインドに閉じ込められていた自分に気づくでしょう。

マインドはたいへんなパワーがあります。しかし、それは「ロバ」なのです。すなわち我々自身がそれを操作する方法を習わなければならぬということですが。たとえば、マインドが受けているネガティブな印象を転換することで、マインドのイメージを変えることができます。

このマインドのエネルギーは、人どんなに離れていてもキャッチするといふことができます。それがテレパシーです。マインドのエネルギーをキャッチするといふことは、そのマインドが投影しているシンボルをキャッチする、ということでもあります。

ここでユリ・ゲラーが、メンタル・エネルギーを使うことで、どうして意識の進歩がなかったかを示したいと思ひます。彼はスプーンを曲げるというエネルギーを使って、ガンの治療もできるでしょう。彼は自分の性エネ

ルギーを金属を曲げることに消耗しています。金属を曲げるには別の道具があるのに、どうしてこのエネルギーを使わなくてはならないのでしょうか。そこで誰が得をしたのでしょうか。それどころか何本かスプーンが使えなくなりしました。彼がこのエネルギーをガンの

治療に使ったらどうなるでしょうか。スプーンを曲げるのも、ガンを治療するのも、全く同じエネルギーなのです。スプーン曲げというのは、メンタル・エネルギーを使って遊んでいるようなものです。これは批判をしているわけではありません。だれでも、したいこと

をする自由があります。私がここでみなさんにいいたいことは、メタル・ペンディングができたからといって、その人がスーパーマンであるというイメージをマインドにつくらないうようにして欲しい、ということなのです。

## 5. 意志のエネルギー



さて、五番目のエネルギー、それが意志の

エネルギーです。このエネルギーを象徴するもの、それが剣、刀です。また、バラの刺でもこの意志が象徴されます。エジプトのファラオの場合、一方に性エネルギー昇華の杖、もう一方に曲がつた杖をもっています。これがファラオのむちです。このむちがやはり意志のエネルギーの象徴です。

このエネルギーはたいへん重要なものです。このようなノーシスの講座を勉強しつづけるためにも、まず「意志」が必要でです。そして、もうひとつ必要なものがあります。それは、

自分自身に正直であるということです。自分自身に正直でなければ、全く無駄になります。物事に直面し、自分自身の欠点を正直に認めなければなりません。そして、それを克服するため、意志の力を開発するということで

す。

この意志のエネルギーを開発する方法、それは「正しい行い」です。そして、「意識ある努力」です。たとえば、ある日、たいへんおもしろい映画があるとき、そのとき、映画に行くかノーシス講座に行こうか選択しなければなりません。その場合、精神的進化をするために、意識ある努力によって自分自身で決めることとなります。ここで意識ある努力をしないと、意志の力が弱くなってしまうのです。

日本民族は一般に勤勉であり、この意志の力を鍛練し、多く使ってきました。

また、ヨーギ、ファキール、僧たちも、きびしい修行によつて、この意志の力を強くしようとしてきました。たとえば、片足をあげて何時間も立っていたり、地中に何日も入っ

ていたりします。日本では、滝行などをします。禅宗では、作務さむといつて、いろいろな雑役によつて意志の力を強くします。

しかし、このような修行者たちのいけない点は、そのような訓練によつて強くした意志の力を狂信的なものに向けてしまい、ということなのです。そうすると、その人たちは、人生の終わりに、狂信という結果を収獲することになってしまふでしょう。

この意志というエネルギーを知っている人は、たいへん数が少ないのです。

みなさんも存知のように、イエス・キリストが十字架にかけられたときに、頭にいはらの冠を付けていました。意志の冠が与えられたのです。このように象徴的なメッセージは、たいへん正確で数学的です。



## 6. 意識のエネルギー



第六番目のエネルギーは、意識のエネルギーです。意識のエネルギー、それがノーシスです。このエネルギーの象徴となるものが、光そして火です。また、ランプによつても象徴されます。神道では、紙がそれを象徴します。紙は、英智を伝えるものだからです。

みなさんがここで受け取っているノーシスは、意識の榮養となります。ノーシスは、意識の価値を呼び起こし、現実を光を当てて見させることを促します。ノーシスを我々のなかで活動させるといふことは、意識の目覚めを助けます。意識の目覚めがないといふことはロボットのようない機械的狀態になります。日本は、世界中の発明をコピーするといふことを学び、実行しました。いまでも、コピーしかしてないと思つてゐる外国人がいます。しかし、それは違います。テクノロジーのなかに、段階的に三つのステップがあるからです。

第一段階は、技術の習得。すなわち、技術者を養成することです。第二段階は、生産です。この段階でパテントを模倣するといふこ

とがはいつてきます。この段階を終了すれば、自分で発明するといふ第三の段階になります。日本のテクノロジーも、この第三段階に達しました。ですから、日本はもう海外のまねをする必要はありません。事実、アメリカは日本からソーラー・バッテリーやロボットのパテントを買つています。

しかし、多くの人たちはいまだに以前と同じことを考えています。それは、マインドの中に塀が巡らされ、その塀の外に出ることがないからです。そうならないためには、意識のエネルギーを強くしなくてはなりません。多くの人たちが、「ノーシスとはなんですか」と聞きます。ある人は、講座を通して習うので、「学校」であると考えます。それは、マインドにある学校のイメージと一致するからです。また、治療などの儀式をすると、ノーシスを「宗派」であると考えます。そして、宇宙の研究をすると、ノーシスを「純粋科学」とあると考える人もいます。

このように、ノーシスはあらゆる分野をカバーしますが、学校でも、芸術でも、科学でも、宗教でもありません。ノーシスは、「意

識」の純粋なエネルギーなのです。みなさんは、ここに、このエネルギーを受け取りに来ているのです。

ノーシスは、この人類の無知の闇を排除する最後の光です。いつの時代にも、秘密のグループに与えられてきました。それは、イエシエイトの段階に達した人に与えられたものです。このように、公に人類に示されるのは、人類の歴史のなかではじめてのことです。これまでの文献で、ノーシスの知識、たとえば「性エネルギーの昇華」などについて発見することはないのでしよう。ノーシスの後で期待できるものは二つだけです。それは、戦争と大異変です。そして、このノーシスの英智のみが、戦争と大異変を克服し、永遠の価値を見出すことを可能にさせます。

そうすると、この六番目のエネルギーを活動させる開発方法として、まず第一にノーシスの修得があります。

第二番目に、エゴの模倣があります。それは、エゴは意識のエネルギーを盗むからです。このエゴがマインドの妨害をします。そして、エゴはオーラを汚します。さらに、肉体的な

病氣の原因にもなります。

第三番目が八儀式Vです。儀式は、意識のための言語です。日本のように神道や仏教の儀式を守ってきたことは、意識の榮養に役立ちます。また、神話もその榮養となります。そうすると、ノースス直観的認識によって儀式を理解することができます。そして、儀式を理解することによって光をさらに強くすることができます。ここで重要なのは、エゴ

## 7. 魂のエネルギー

さて、七番目に魂のエネルギーがあります。このエネルギーは最も重要なものです。この象徴となるのがドラゴン（龍）です。このエネルギーは火のなかの火です。火のなかにはすでにエネルギーがあります。

このエネルギーの榮養となるものが三つあります。その第一が、昇華された性エネルギーです。というのは、卵子も精子も生命のエネルギーだからです。魂が生命を与えます。魂は命です。命は命を榮養とします。性エネルギー昇華がいかに重要か、ここでもう一度注目してください。性エネルギーを消耗するたびに、この魂のエネルギーを失なっているのです。ノーススが提供するのが、知識と性

を根絶するために儀式を受ける、ということ

です。このノーススなしでエゴの根絶を計ることはできません。多くの文明が失敗したのは、そのためです。この知識の重要さが想像できませんか。どうして、ノーススが商業化されていなくてもわかるでしょう。この知識には価値がありません。ノーススは、我々の魂や霊に関することです。これに関することは商業

エネルギー昇華の方法です。

いままでみなさんは、多くの転生のなかで第一番目から五番目までのそれぞれのエネルギーを、各自それぞれ開発する仕方を知ってきたことでしょう。ところが、第六番目と七番目のエネルギーについては、ずっと人類の秘密にされてきました。ですから、いま重要なのはこの意識と魂のエネルギーなのです。すなわち、この二つのエネルギーの開発に専念すれば、それ以外のエネルギーはひとりでやってきます。しかし、いかに超常感覚が発達していても、この二つのエネルギーが開発されていなければ、以前と同様に無知のまま死にます。また、いかにすぐれた食事を

化してはならないのです。

意識の目覚めとはすなわち正覚、光です。闇を排除するということです。すなわち、意識を開発するものは決してだまされることはいない、ということ

です。ノーススは、ちょうどフィルターのようなものにたとえることができます。すなわち、すべてをフィルターで濾し、真実を見極める判断基準を与えるからです。



していても同じことです。スプーンを曲げたとしても同じです。重要なのは、意識と魂のエネルギーの開発です。

だからといって、肉体が重要でないといっているわけではありません。肉体は、ほかのエネルギーがプロセスされるラボラトリー（研究室）だからです。この肉体はたいへん重要です。だからこそ、自殺をしてはいけないと何度もいつているわけです。たとえば、肉体はここに茶わんに相当します。この茶わんは凝縮された物体であり、お茶を入れるために必要なものです。茶わんがなければお茶は飲めません。けれどもこのお茶わんを食べるわけにはいきません。重要なのは中身であ

るということですが。我々の肉体はラポラトリ  
ーです。ちょうど茶わんと同じように。重要  
なのは魂なのです。

そして、魂のエネルギーを活動させる第二  
のもの、それが△愛▽です。この愛は犠牲の  
愛です。犠牲的愛によつて、人類に献身する  
ということですが。魂のエネルギーによつてこ  
の愛を開発しなければ、本当の愛を知ること  
はありません。これを開発する前の「愛」と  
いうのは、きまぐれの情であつたり、異性に  
対する好みであつたり、情欲的な欲望であつ  
たり、肉欲的・感覚的なものであつたり、ま  
た自分の利害であつたりします。それらは、  
決して愛ではありません。愛は犠牲なのです。  
そして、これは魂に属します。ですから、よ  
く「神は愛である」といいます。これが本当  
の愛なのです。

そして、もうひとつ第三番目として、魂の  
栄養となるものがあります。それは秘密の宗

派などに残されているもので、パンとワイン

の実質成分交換の儀式です。世界中のすべて  
の秘密のグループで、この儀式を保存してい  
ます。マヤでも、エジプトでも、神道でも、  
仏教でも、またキリスト教にもです。

これは、魂を強化するために、高次のエネ  
ルギーを注入するひとつの方法です。そして、  
これによつて魂を強化させると、不滅の存在  
となります。また、戦争を止める唯一のエネ  
ルギーであり、大異変を防ぐ唯一のエネ  
ルギーでもあるのです。そして、我々を永遠に救  
済する唯一のエネルギーです。

この講座の目的は、このことをみなさんに  
教えることです。そして同時に、みなさん自  
身が同じ民族にこれを伝達することを習つて  
います。何千万という日本の人たちが、この  
魂の栄養を渴望しています。純粋な知識を求  
めています。もう学校などには行きたくない  
と思つています。もう商業的なグルには会

たくないでしょう。また、狂信的な宗教も望

んでいないでしょう。というのは、魂はゴミ  
は食べないからです。意識と魂は、純粋なエ  
ネルギーと英智を栄養とするからです。これ  
がみなさんとここで分かちあつているもので  
す。この知識が日本中に行き渡れば、世界中  
が日本の後を追うでしょう。いまでも、ラテ  
ン・アメリカの諸国が日本を尊敬しています。  
日本がすることを世界中がするでしょう。そ  
うすれば戦争を防ぐことができます。そして  
永遠に救われることも可能です。

我々が生きている時代は、地球の五番目の  
最後の時期なのです。ですから、ノースが  
伝えられる目的は、みなさんが次の地球の第  
六番目の時代、黄金時代の種人となる準備の  
ためです。そして、この宇宙のなかで有益な  
存在となるためのものです。

(木曜グループ、インストラクター養成講座  
1983年4月7日より)

サマエル・アウン・ベオール著

# ノース心理革命

定価一四〇〇円

人間が絶えず探し求めているものは、自  
由になることである。しかし、人間はどこ  
にいても自分自身の心理に閉じ込められて  
いる。自分自身の心理の動き、そしてその  
原因を理解することなく、人間は決して自  
由になることはない。その「自由」への道  
標が本書のエッセンスである。

発売/新泉社

発行

日本ノースセンター

# 般若船の船長

山本庸夫  
(美愛好家)



般若

「般若」とは何か

般若(ハンニャ)とは、何であるか。すぐに出てくるのは、般若の面である。次に般若心経、酒について般若湯。奈良に行けば般若坂と般若寺。日光では般若の滝。オフダで般若札、知徳にみちた声または鬼女の発する恐ろしい声で般若声、般若の面に似た恐ろしい顔で般若顔、涅槃経ねはんきやうに説かれた三徳の一つで般若徳、みにくい顔の娘の般若姫がある。

そこでこの般若という語はどこから来たのか調べてみると、唐の

時代に玄奘三蔵という偉いお坊さんがいた。彼はインドへ行き、仏教を研究し、中国に帰ってからインドの仏典をたくさん翻訳した。その中で題名を

「Prajna-paramita-hridaya-sutra」

(ブラジュニヤ、パーラーミタ、フリダヤ、スートラ)という Sanskrit の原語を「般若波羅蜜多心経」と訳した。そこで、このようにブラジュニヤを般若と言ひ。そしてこの般若という語の意味は智慧ということである。絶対智のこと。

この智慧はあらゆる物事の本来

のあり方を理解し、仏法の真実の姿をつかむ知性の働きであり、最高の真理を認識する智慧である。辞典にはまた別の意味として、女性の嫉妬を表わした面で般若面という。または鬼女であるとする。

このように般若という語には二つの意味がある。語源的には般若は智慧であるのに般若面としての意味にも使われているのは何故だろう。

般若面について

そこで般若面とはどんなものか。どうなっているのか。それは皆さ

んのよく知っている、眼は大きく吊上り、口は両端に裂けていて、大きな牙を持ち、頭に鬼のような角をはやした女性的な凄味こわみをきかせた怨霊の仮面である。これは一説には、能面の鬼女面の作者が奈良の僧で般若坊という名にちなんで鬼女面のことを般若面という。

または、葬式部の源氏物語で主人公の光源氏の正妻せいさいの葬式むすびを題材にした「葵の上」という謡曲の中のラストの部分で、ここに出てくる六条の御息所みよしよの怨霊を山伏達の祈りによって退散させるとき、「あらあら恐ろしの般若声や これまでぞ怨霊この後またも来るまじ」と言ったとある。このあらあら恐ろしの般若声という謡文から鬼女を連想して鬼女の名称となったとある。よって鬼女の面を般若面という。この鬼女は、女の姿をした鬼または鬼のようなすごい女のことであ

る。

では鬼とは何か。鬼は隠(おぬ)のなまりで姿が隠れて見えないものであり、また「お」は大きい、「に」は神事を行なうを意味している。鬼は、普通、赤鬼、青鬼のようにはだかで腰にトラの毛皮をまきつけいかめしい顔をした怪力の持ち主を想像するが、民間伝承では、山に住む山男や山人(すまね)が里におりてきたときに村人が酒や食物で御馳走(ごちそう)するのでそのお札にと薪や木の皮を置いていったとある。

また、各地に鬼の足跡と称する窪地や大石があるが、山男や山人あるいは大人(おとな)が村人と交流するところからこれを題材として神事芸能に表われてくる。また、子供達の間で行なわれている鬼ごっこや隠れん坊は鬼あそび及び隠あそびと呼ばれている。これらは一種の神事芸能の模倣であろう。

そこで神楽は神遊びと書く。

「あそぶ」は舞う、踊るということをこめている。花祭もそうした神楽であるが、神楽は八幡神に関係のある海人部が官廷に入って、

「占」をすることが基礎になり、踊りや歌、鎮魂を主として行われてきたものである。猿楽や田楽から舞楽としての能楽が生まれてきた。能楽は劇文学であり、音楽と舞の芸術である。この能楽は、種類別にみて五つになる。一番目は

脇能物(高砂、白染天等)で神舞を舞う。二番目は修羅物(清経、頼政等)で悲壮な戦いを見せるもの。三番目は霊物(野宮、江口等)で優雅な舞を演ずる。四番目は雑物で種類が多くあり、女物狂、男物狂、現在物、唐物、怨霊(三井寺、芦刈、藤戸、綾敷等)としてある。五番目は切能物(黒塚、車僧、大江山等)であり、鬼、天狗の登場がある。五番まとめて一度には演能されないが、二番以上はこの順番で上演される。

### 角隠の由来

ここで三番目の霊物は、芝居では女形が中心であり、桂帯を頭にかけて出るものがある。桂帯は京都の桂女達が頭に白い布を巻いて



▶桂女の髪巻

◀角隠



都へ飴や鮎を売り歩いていた。

この桂女の祖先は神功皇后の侍女で、息子の応神天皇が産まれた時に神功皇后が腹に巻きつけていた岩田帯を桂女の祖先が下賜(かみ)されて、頭に巻きつけたものが始まりというところで桂帯はかならずしも腰にまわすものばかりでなく、頭に巻きつけたりもする。だから、帯のことを「ぼりし」という地方もあった。そして、桂女達が頭に白い布を巻いていたものを桂包(かづき)という。

この桂包は今日の日本式の結婚で新婦が頭にかぶる角隠の由来とな

るものである。

この角は女の嫉妬または怒りを表わしている。これは般若面にもあてはめることができる。四番目の怨霊で「葵の上」、五番目の「黒塚」の鬼婆は鬼女であり、能楽では般若面が使用される。

ここで、この般若面は鬼女を表わす。一方、般若の知恵は絶対智慧、あるいは真理を示している。

この二つの般若はまったく違ったものとして表現されている。では、般若の智慧はどのようになってくるのか。後白河院が遷者の梁塵秘抄に般若経四首が読まれている。

「般若十六善神」は中道の理として、「大品般若経」は諸法が空であり、寂である意味に、「般若畢竟空(ひつじやうくう)」は一切の事物は不変の实体がないことで、「般若の御法(ごほう)」は法華経を尊ぶとある。

### 「般若心経」の智慧

次に般若の智慧の語源としての般若心経をのぞいてみる。般若心経の内容を示すと、

「観自在菩薩が深く般若波羅蜜多を行ずる時、人間存在としての五要素は皆空であると照見して一切の苦厄を越えられた。舍利子よ、色は空に異ならず、空は色に異ならず、色は即ち是れ空であり、空は即ち是れ色である。受想行識についても同じことである。舍利子よ、これらの存在は空想である。それは生じもしなければ滅びもしない、またたかなくもなくきれいでもない、増しもしなければ減りもしない。是の故に、空の中には色も無く、受想行識も無い。また眼耳鼻舌身意も無く、色声香味触法も無く、眼界も無く、その外意識も無い。無明も無く。また無明が無くなつてしまふこともない。苦集滅道も無い。智も無く、また得も無い。無所得をもつての故に菩提薩埵の般若波羅蜜多に依るが故に心に罣礙無く、罣礙無きが故に恐怖がなく、一切の間違つた思想を超越して永遠の涅槃にとどまる。三世の諸仏も般若波羅蜜多に依るが故に至上の正しい完全なさとりを得られたのである。故に知

る。般若波羅蜜多は是れ大神呪なり、是れ大明呪なり、是れ無明呪なり、是れ無等等呪なり。能く一切の苦を除く。真実にして虚しからず。故に般若波羅蜜多の呪を説く。即ち呪を説くと次のようになる。『羯諦、羯諦、波羅羯諦、波羅羯諦、菩提薩埵訶』これが般若心経である。」

この色即ち空、空即ち色の空といふものをエネルギーの立場で考えると、量子力学の世界では、エネルギーのかたまりとしての粒子は相互作用によつて転換し、生成消滅する。電子の反対符号で正の電荷をもつものを陽電子といひ、電子と陽電子が衝突して、その物質は消滅して光になる。また、二つの光が衝突して電子と陽電子が生じる。そこで物質及び空間をエネルギーとしてとらえることができる。このエネルギーの放出や吸収は粒子が生まれたり消えたりする現象である。次に心経の中の般若波羅蜜多は彼岸に行くことで仏(覺者)の世界へ到達することである。般若の智慧は一切の煩惱や執着をた

ちきり、あるがままな真実の姿をつかむ。誰にでもあてはまる真理を体得し、高次元の世界を把握することである。

そこで般若といふのは智慧としての意味におちつく。しかし、智慧といつても頭の中で考えているのは智慧であつて般若の智慧ではない。体全体でわかるものが智慧である。そして、この智慧は尊いものであるから、これを世間的な欲望や嫉妬心として悪魔術に奉仕すればまわりの人を不幸にし、本人をも滅し、あの恐ろしい鬼女の姿に変身するのであろう。また、これを人々の幸福を考え調和をもつて接すれば般若の智慧を突感する。だから、般若が白・黒といった表裏をもち、般若といふものはたえずこの二面性が隠されているのであろう。

宮沢賢治の時にこうある。

おれたちはみな農民である。ずいぶん忙がしく仕事もつらいもつと明るく生き生きと生活をする道を見付けたい。

われらの古い師父たちの中には

そういう人も応々あつた。

近代科学の実証と求道者たちの実験とわれらの直観の一致に於て論じたい。

世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない

自我の意識は個人から集団社会宇宙と次第に進化する

この方向は古い聖者の踏みまた教えた道ではないか

新たな時代は世界が一の意識になり生物となる方向にある

正しく強く生きるとは銀河系を自らの中に意識してこれに応じて行くことである

われらは世界のまことの幸福をたずねよう 求道すてに道である

『農民芸術概論綱要序論』

参考文献

『般若心経講義』(高神覺昇著・角川文庫)

『折口信夫全集』(講談社)

『神と祭り』(牧田茂著・講談社)

『京女』(高取正男著・中公新書)

## ●ノース・プラクティス

## 前生を思い出すためのプラクティス

## 1 鏡を用いる方法

用意するもの

○鏡、ローソク一本

## ●方法

- ①他のものがあまり目に入らない場所に、鏡とその横に一本のローソクを置く。
- ②その鏡の前に座る。
- ③なるべく瞬きしないようにして、自分の目を凝視する。
- ④ハートに意識を集中し、自分の内なる母に前世をみる許可をたてる。
- ⑤マントラ「イース」を数分間唱える。
- ⑥リラクセスして、鏡のなかの眉間に集中する。
- ⑦リラクセスした姿勢で鏡をみつめる。

コメント

☆いつも自分のハートに前世をみる許可を取ること。

## 2 コップの水を使う方法

①テーブルの上に、水を入れたコップを置く。

- ②おおよそ60センチ離れた所に座る。
- ③マントラ「イース」を唱える。
- ④水の表面を見る。

コメント

☆やり方は、前の方法と同じようにする。

この方法はノストラダムスが予言するときに使ったもの。

## 3 メディテーションによる方法

- ①リラクセスして、瞑想に入る。

②今日したことを思い出す。

③去年したことを思い出す。

④子ども時代のことを思い出す。

⑤母胎にいたころのことを思い出す。

⑥記憶のなかをそのまま活動させておき、前世のことを思い出す。

## 4 夢を用いた方法

①夢のなかで、夢であると意識する。

②そこで、前世を見たいと思う。

③その次元の存在に援助を求めらる。

コメント

☆幽体離脱の場合も、これと同じようにする。

## 「ノース心理革命」を読んで

「ノース心理革命」を読み、今迄の教えで得られなかった実りをもらしてくれるように思いました。

会合や催し等がありましたら参加させて頂きたいと思えます。(T.T.)

「ノース心理革命」を早速お送り下さり、ありがとうございます。

夢中で読んでしまい、読み終わった後に、偉大な真理があると感じました。これからは何度か読み直して確かな自己変革を実現したいと決意しています。(Y.S.)

新泉社刊のサマエル・アウン・ベオール著「ノース心理革命」を読ませていただいた感謝を受けたいです。とても読みやすく、わかりやすく、すばらしい本だと思います。ノースが現在、世界中にひろがっていること知って驚かされました。貴センターの活動内容を是非知りたく思っています。(長野県 M.I.)

先日「ノース心理革命」を購入し、毎日繰り返し読ませて頂いています。同時にワークにもとりこんでいます。このような書籍を一般に販売して頂き、本当に感謝しています。以前「グルジェフ」の本を教習院で読んだことがありますが、グルジェフのワークは個人では不可能であり、グループによらなければならぬとされており、日本ではそのようなグループを見つけるのが困難ではとんどあきらめていました。しかしノースの場合、個人で実行できると思われ、ありがたいと思っております。

書籍だけでなく直接教えて頂くことはできないものでしょうか。よろしくお願ひいたします。(埼玉県 T.K.)

# 生活のなかのセラピー

このコーナーでは、日々の生活のなかで実践できる、ノーシスの治療的技法（セラピー）を取りあ

げます。これを参考にし、みなさんの日常生活に応用してください。

## I 体内のエネルギーを外に出す方法

人間の身体は、エネルギーで満ちています。それゆえ、体内でそのエネルギーを交換（トランスフォーム）できないのなら、それは外に出る必要があります。そのまま体内に残ると、さまざまトラブルを引き起こす原因になるからです。

また、ビックリしたときに、私たちは、「ハア」と息を吐き出しますが、これも無意識に行われているエネルギーの排出作用です。このようにして、私たちは体内の交換できないエネルギーを外に出して、体内の均衡を保っているのです。そこで、ここでは針とかタバコに頼ることなく、このエネルギーを排出するにはどうしたらいいのか、その方法を取りあげてみました。

針治療をしたり、タバコを吸ったりする行為には、体内のこのエネルギーを外に出す作用があります。つまり、針を通してエネルギーを排出する、タバコの煙を吐くときにエネルギーも排出するわけです。

●方法  
“自分の息を大きく吐くこと”

このセラピーは、疲れた目の治

療をします。目は太陽光線を栄養

## II 目の疲労をいやす方法

たとえば、人に悪口を言われたり、侮辱されたりして、怒ったとします。そうすると、自分のなかでものすごいエネルギーが発生します。このエネルギーを体内に残しておく有害になります。そこから、サイコソマティック（心身相関のある）な病気にもなります。そこで、次のようにします。「この怒りのエネルギーは、私に害を与えるから、外に出さなければいけない」という意識をもち、そして、スタッカート（一音符ごとに音を切つて短く歌い、また奏すること）のリズムをとりながら、「フッフッフッフ」と外にすべて

出してしまいます。これによってだいぶ落ちつきます。ここで大事なことは、意識を集中することです。すなわち、吐く息と同時に、怒りもいっしょに外に出ていくと意識することです。また、驚いたときにも、怒りと同じように大きなエネルギーが生じます。その場合は、怒ったときと同じ要領で、「ヒューヒュー」と息を吐き出します。このようにすると、なにも気にならなくなり、すくなく、他人のことを批判したり、理由もなく恐れたりしなくなります。そして、幸福になります。



としていきます。同じように、植物もまた太陽エネルギーを吸収して成長します。そのため、植物には目の治療となる成分が含まれています。

そこでここでは、カモミール・ティーを材料として使います。このカモミールというのは、日本ではかみつれの花といわれており、薬草の一種です。

この薬草は、目の治療のほかにも消化器系の治療にも使えます。たとえば、胃痛、便秘、消化不良などに。この場合の使用法はお茶にして飲みます。

また、毎日健康のために飲むこともできます。量をひんぱんに飲んでもかまいません。

以上は、目の治療以外に使う場合の方法ですが、つぎに目の治療についてみると、まず目を洗うときに使えます。特に、目にゴミが入ったときには効果があります。

つぎに、目の治療法です。かみつれの花のお茶をティーカップなどに用意し、それを少し冷やします。そして、緑色のタオルをその

なかに浸し、染み込ませます。そのタオルを目に当てて、しばらくの間リラククスしています。これが最もシンプルなやり方です。

このセラピーは、仕事や読書の後の眼性疲労はもちろんのこと、トラブルによる神経の緊張からくる目の疲れにも効果があります。というのは、目の疲れは、我々の内部で起こしている問題のエネルギーを原因としていることが多いからです。また、肉眼は、物質のなかでも一番凝縮したのを見るために使っているのです。多大なエネルギーを使います。そのため非常に疲労を生じやすい器官なわけです。

そして、憎悪やねたみなどのエネルギーは、視神経を犯します。その結果、眉間の痛みや頭痛や肩こりを生じさせます。そうならないためには、内部のネガティブなエネルギーを生じさせないようにし、内部のエネルギーの元を正していく必要があります。

では、つぎに具体的にどのように行うかを順を追って示します。

## ●方法

- ①カモミール・ティーにタオルを浸す。
- ②身体をリラククスさせる(横になるのが理想であるが、イスに座つてもよい)。
- ③浸したタオルを両目の上に置く。
- ④心身ともにリラククスさせる。
- ⑤薬草のエッセンスが目浸透するのを感じる。
- ⑥目が生き生きとよみがえるのを感じる。
- ⑦かみつれの花の精を思い浮かべる。
- ⑧自分の聖なる母に、目の回復と治療を頼む。  
(次のようにする)

「かみつれの花の精、私の目を治療しなさい。疲れを取りなさい。目を強くしなさい。」

オーム セヤ 力ちから

オーム セヤ 力

オーム セヤ 力

オーム セヤ 力

かみつれの花の精、キリストの名に  
おいて、私の目を治療せよ。聖なる法により。そうありますように」

## コメント

○タオルの生地は、できれば綿一〇〇パーセントがよいが、合成繊維でもよい。

○タオルの色は、緑色がベストである。それは、緑色のパイプレーションが治療的效果があるため。緑色のものがない場合は白色でかまわない。

○ティーの温さは、ぬるま湯程度にするが、夏は冷たくしてもよい。

☆この目の疲労をいやすセラピーの効果は、かみつれの花の薬草成分と聖水(水のエクソシズム)と高次、自然界からの援助によって最大限に生かされます。



# 人生で勝利を治めるために

サマエル・アウン・ベオール著  
「ノーシス入門」第一章より

人生で勝利を治めることは必要である。

あなたが本当に勝利を治めることを望むなら、まず自分自身に正直になり、自分のあやまちを認めることから始めなければならぬ。なぜなら、我々が自分自身のあやまちを認める時、それらを正す道を歩き始めることができるからである。

自分のあやまちを正すことができる者、それが勝利を勝ちとる者となる。

地位や肩書があろうとも、物事がうまくいかないのは自分のせいではなく、常に他人のせいだと考える人々は決して勝利を治めることはない。

犯罪者でさえも自分は聖人のようだと考えている人があることを思い出しなさい。牢屋を訪ねてみれば誰一人として自分が盗みや犯罪の原因であると考えている人がいないのを確認するだろう。

その同じあやまちを犯してはならない。自分自身のあやまちを認める勇氣を持とう。そうすれば多くの不運を避けることができ

るだろう。

自分のあやまちを認めることのできる者は幸福な家庭を築くことができる。自分自身のあやまちを認めるに至る人ならば誰でも、政治家であろうが科学者であろうが、哲人や聖職者であろうが、それらを正し、人生で勝利を治めることができる。

もしあなたが人生で勝利することを心から望むなら、誰も批判してはいけない。他人を批判する者、それは弱い者である。反対に自分自身を一瞬一瞬批判する者、それは強い巨人である。

他人を批判することは無益である。なぜなら批判は批判された人の自尊心を傷つけ、不快感と抵抗を起こさせ、そしてそれを正当化すべくいいわけを探すことを余儀なくさせるからである。

「批判」は必ず何らかの反応を生じさせる。もし本当に勝利を治めたいのなら、この忠言に耳をかそう。誰も批判してはならない。

他人を批判せずに生きることを知っている人々は他人の抵抗や反応を誘発することがなく、自分の回りに成功と進歩の環境を作り出す。反対に他人を批判する者はおのずから、敵に囲まれることになる状況を作り出すことになる。

人間は自尊と虚栄で満ちているということを思い出さなければならない。そして人間につきもののこの自尊と虚栄が、恨みや憎しみなどの感情を反射的に生じさせ、それは批判者に対してさし向けられることになる。

すなわち隣人を批判する者は失敗を余儀なくさせられるということを結論できる。

他人を正そうとするより、自分を正すことを始める方が有効である。そうすれば結果は大変すばらしいばかりか、敵を持つ危険も少ない。

世界中に神経衰弱患者が数多くいる。神経衰弱の傾向のある人は口やかましい批判家で、怒りっぽく、がまんならないほど偏

狭である。神経衰弱の原因は、短気、怒り、  
 利己主義、自尊、うねほれなど数多くある。  
 神経系統は、我々の魂と肉体のひとつの  
 媒介である。神経システムを大切にしよう。  
 我々の神経を疲労させ、過敏にさせ、い  
 ら立ちを感じさせるものは何であろうとも  
 その原因をとり除くことが望ましい。  
 勤勉に働こう。しかし度をこさずに。過  
 度な労働は疲労の原因となることを忘れて  
 はならない。疲労を考えずに過度の労働を  
 続けるのなら、神経を酷使し、思考力、注  
 意力を衰えさせ、持続力を失ない、刺激に  
 対して異常な感情状態となる神経衰弱へと  
 悪化してゆく。  
 労働と適度の休養を交互に組み合わせるこ  
 とは必要である。そうすれば神経衰弱患者  
 になることを防ぐことができる。  
 勝利を望むなら、神経衰弱に充分注意を  
 払う必要がある。  
 ひっきりなしに他人を批判する上司はた  
 えがたい存在となる。神経衰弱は耐久力を  
 奮い取るため短気にさせ、この上司を部下  
 たちにとって退屈このうえない存在とさせ  
 る。神経衰弱で、口うるさい上司の下で働  
 く部下たちは、結局その仕事と上司を憎む

ことになるだろう。  
 多くの企業が失敗する理由のひとつは、  
 労働者が快く働けないことよって効率が  
 あがらないことである。  
 反対に雇用人が神経衰弱ならば、反抗的  
 で短気であるために、首を切られることにな  
 るだろう。神経衰弱の労働者は、いつ上  
 司を批判しようかとその機会を待ちうけ、  
 あらさがしに余念がない。しかし上司も自  
 尊心と虚栄心があるために、批判されるこ  
 とを快く思わず結局職を失なうことになる  
 のは明らかだ。  
 我々は自分の神経システムを大切にあつ  
 かおうではないか。仕事に節度を保ち、健  
 康な娯楽を楽しみ、そして誰一人として他  
 人を批判するのはやめよう。  
 人間の内にいる良い点を常に見い出そう  
 と努めよう。良い批判などというものは決  
 して存在はしない。  
 我々は常に建設的に、創造的に進み、人  
 生の中で勝利を治めようではないか。

怒りを抑制するエクササイズ

怒りが湧き起こってきた、いら  
 いらする。神経質になっている。  
 こんな時、ちょっとだけ考えよう。  
 怒りやいらいらは胃かいようを勝  
 発することを思い出そう。  
 生命の氣息呼吸を通して怒り  
 をコントロールしよう。

鼻からゆつくりと息を吸いなが  
 ら、メンタリーに(声を出さず)に  
 数を数える。 1 2 3 4 5  
 6……

そのまま少しの間息を止め、今  
 度は息を吐きながら「怒り」が外  
 に出ることを想像し、メンタリー  
 に 1 2 3 4 5 6 と数  
 える。

このようにして「怒り」を吐き  
 出しきるまでこのエクササイズを  
 くり返す。

